

県央支部研修会「て・あーて」の実践報告

講師：美須賀病院 総看護師長 重見美代子先生

日 時：令和6年11月30日（土）

参加者：51名



アンケート結果など

今回の研修会で良かったこと、感じたこと

- ・ 事例をみて患者様の身体的、精神的な改善を目にしこんなに魅力的なケアがあるんだと感動しました
- ・ 様々な業務が山積みで自分がどのような看護をしたかったのか見失っていましたが自分がしたかった看護とはこの様な事だと感じられた所. . .
- ・ 普段の現場の自分の看護を考えました。全部はできないけど、原点に戻って考えたいです
- ・ 看護の基本、看護の原点について再度考えさせられた。日々のジレンマはあるが何か実行しないといけないという思いになった。
- ・ 看護の原点に戻り、現状の自分の出来る事を考えて、今日の研修で学んだ事をもう一度原点に帰り実践して行こうと思います。ありがとうございました。
- ・ 看護とは何か考えることができた。
- ・ 看護について深く考える事ができた
- ・ 初心にかえることができた
- ・ 本当の看護とはこういう事なんだと感動した。
- ・ 看護の本質を見直すことができ、自分の役割を果たしていこうと心新たにすることができた。このような研修を今後も企画お願い致します。
- ・ 看護の本質を考える機会となった。自分を振り返って考えさせられました。
- ・ 若い看護職への伝達。
- ・ 素晴らしい看護実践の講演を拝聴でき、改めて原点に立ち返ることができました。感動しました。重見先生の実践力とリーダーシップを心から尊敬します。これから頑張りたいと心から思います。
- ・ 患者の立場になって看護を実践され、患者を笑顔にすることができ、素晴らしいと思いました。理想的な看護です。できる限り、て・あ一での看護を実践したいと思います。こちらの研修会に参加して良かったです。
- ・ 看護について改めて考えることができました。
- ・ 看護の、本質について考える事が出来ました。
- ・ できそうで、できないことに取り組まれた事に勇気をもらいました。
- ・ 看護の本質の実践が沢山伺えて、看護の可能性と今やることを自覚しました!もっと沢山聞いてほしかったし、少しずつでも良いので広げて行きましょう。

県央支部から一看護の本質の大切さの灯火がはっきりと灯されました～

今後の希望

看護の本質

実際にケアの実演を含めた研修など

てあ一での実践研修

今回のような看護の本質についての研修会

同様の研修をお願いしたい

本日と同様な看護の原点を振り替えれるような研修を希望します。

「て・あ～て」実践を学びたい

「て・あ一て」の研修続編

もう一度、多くの方に「て・あ一て」について重見総師長さんの講演を聴いて頂きたく思います。

手を使った看護の実践

意見交換内容

①現在師長拝命し、実績の点数や病棟運営などで多忙。今回の研修で自分がやりたかった看護、患者家族の思いに沿った看護を改めて思い直し、後輩指導含め看護を実践していきたい。

→現状としてどこの病院も厳しい現状である。患者の笑顔のため頑張りましょう。

②て・あーて、熱布バックケアを先生のところで経験した。今の病棟でも数名患者に実施した。スタッフからタオルでなく、ホットパック持ってきてみましょうかと言われた。タオルがいいのか、ホットパックがいいか教えてもらいたい。

→湿式・乾式がある。ホットパックは乾式、タオルは湿式。点滴探すのはホットパックがいいといわれている。自身で体験してもいいかも。

③看護学校の教師。実習ではお湯で清拭をしている。指導でも診療の補助・療養上の世話の境界線が揺れている。実習生より実習を振り返り「看護師になりたい」や患者体験で涙をながす学生もいる。質問です、不織布1本で看護をしている看護師へどう声かけするとよいか

→スタッフへ自分の体を拭けるか？聞いてみる。

胸髄損傷で痰が出せない患者 熱布バックケアで痰が出せるようになった。当院では、不織布は感染の患者に希望があれば使用している。

エコー検査後、不織布使用していたがスタッフが「冷たい」と経験し暖かいタオルとなった。

コロナ後、感染対策で縮小されている看護がある。コロナ拡大時、美須賀病院では面会制限しなかった。県外者も制限なかった（一時期は断りしたが）。職員の行動制限もしなかった。面会で回復期・ターミナルの患者への勇気づけができています。

④退職後20年経つ。今後は看護を受ける立場。私はこういう看護を受けたいと思った。昔は不織布もなく、タオルで行っていた。今の看護師はPC持っていく、患者の顔を見ない。先生の話で安心した。本当の看護を広めて欲しい。

⑤退職後20年経つ。看護の基本は一緒。病院に行っても看護師は機械をばかりみている、走り回っている。なにか忘れてないかを感じる。暖かい手・心を忘れてないか。講演をうけ感動した。入所するなら、先生のようなところに行きたい。

⑥退職後5年経つ。現職時ナイチンゲールの精神について伝えるも、伝わらず 悶々としていた。支部長から「て・あーて」を教えてもらった。これを看護の常識にしてほしい、国に動かしてほしい。質問で「て・あーて」は評価できない。熱布清拭に使用するお湯がでない施設も多い。

→エビデンス・評価は大学の先生に任せ、臨床現場の看護師は実践し患者の反応記録を蓄積することが大切と川島みどり先生も言われています。

支部長のコメント

意見交換の時、発言される方々は重見先生の「て・あーて」の実践報告に感動されており言葉を詰まらせていました。看護はやはり実践の科学であり、看護の本質の実践は他者に感動を与えることを痛感しました。

また、翌日も電話やメールを頂き、最近の看護状況に疑問を感じていたが霧が晴れたようだとか地道にやれるところから看護を実践していきます。明日からの看護が楽しみとか高齢者になったけれどまだ勉強も看護も考えていきたいなどの前向きな意見を頂きました。

研修会はとにかくその時は「良かった！」と思っても現場での実践につなげられていないことが多いと思います。参加された皆さんの感動が冷めないように、また看護職自身のやりがい、患者さんはじめ地域の人々の「安全・安楽・安心な看護」になるよう県央支部としては次への支部計画に繋げていきたいと思っています。今後も皆様のご理解とご協力をお願いいたします。